

不二精機株式会社
2016年第2四半期決算説明資料
証券コード6400



2016年9月22日HP公開

www.fujiseiki.com

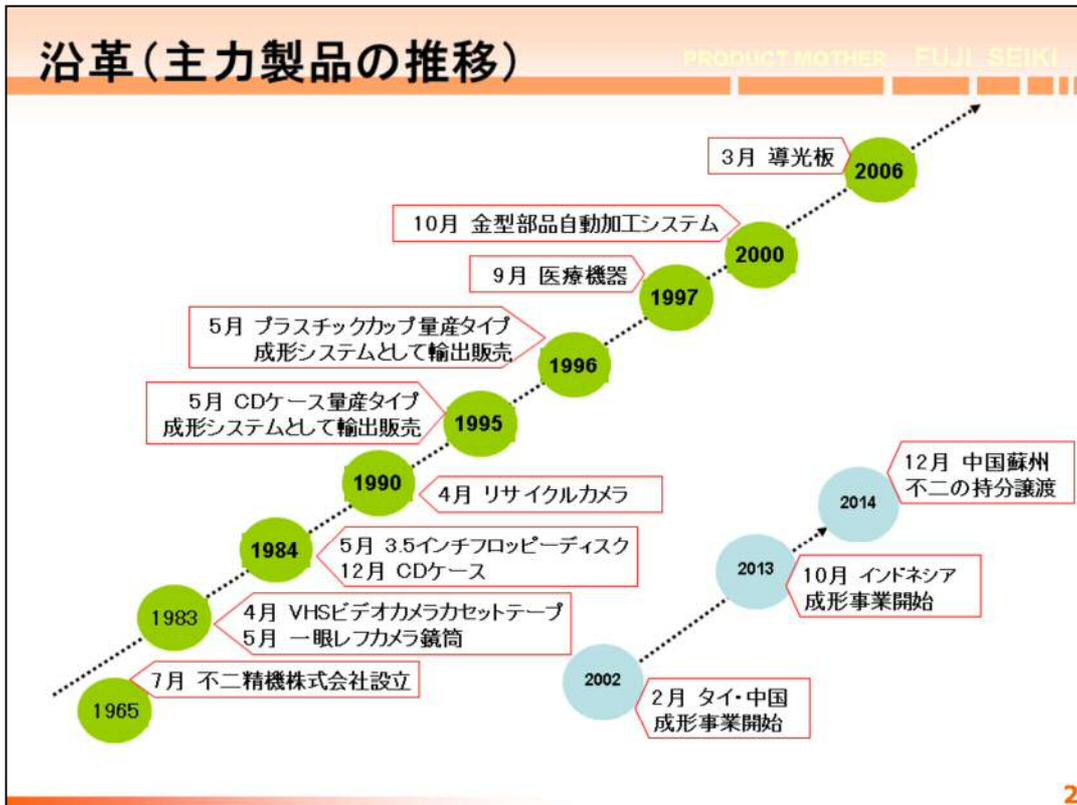
2016年第2四半期の決算と今後の展望などをご説明いたします。

会社概要

PRODUCTMOTHER FUJI SEIKI

1

当社の概要を紹介いたします。



当社は、1955年の創業以来、「精密金型」ひとすじに物づくりを行ってまいりました。

1984年頃からは、成形品1個当たりのコストが重視される大量生産品向けの金型が主力製品となりました。

1995年頃より、金型単体での販売だけでなく、顧客が求める成形品を生産するために必要な生産設備(金型、成形機、取出し機、自動組立機等)も併せての販売(成形システム)が主力製品となりました。

さらに、現在の金型事業においては、大量生産品である注射器などの医療機器用および食品容器用の精密金型及び成形システムが主力製品となっております。

初の海外進出を果たした2001年より成形品生産を開始いたしました。2007年頃より、二輪・四輪車の主に燃料噴射装置部品などの生産を開始し、中期戦略である自動車部品の売上構成比率の拡大を計画的に進めております。

2013年10月より不二精機インドネシアの操業を開始し、東南アジアでの二輪・四輪用成形部品の受注拡大を目指しております。

2014年12月には、欧州の大手電機メーカーの新仕様のCD(コンパクトディスク)ケースの受託生産を主力事業として2002年3月に設立した中国:蘇州不二精機有限公司が当社グループとして中期的に目指す自動車関連部品などの小物精密成形品の製造に適さないこともあり、固定費の圧縮および投資資金の回収を図ることを目的に富優技研(維爾京)股份有限公司へ持分の全部を譲渡いたしました。

海外製造拠点

PRODUCT MOTHER FUJII SEIKI

上海



設立：01/09
稼働開始：02/03

■光学機器用、自動車用などの精密成形品の製造を担当

THAI



設立：01/01
稼働開始：02/03

■自動車用などの精密成形品の製造を担当

常州



設立：02/11
稼働開始：03/10

■グループ内向けなどの精密金型の製造を担当

INDONESIA



設立：12/10
稼働開始：13/10

■自動車用の精密成形品の製造を担当

3

2001年より海外展開を進め、中国/常州に精密金型製造会社のほか、中国/上海、タイ、インドネシアに3拠点の成形品製造会社を稼働させております。

なお、2011年10月に発生した洪水により操業を停止したタイ不二精機は、2011年12月から移転した新工場で操業しております。

さらに、アジアでの自動車生産拠点の集中化に対応し、2012年10月に設立した不二精機インドネシアは、2013年10月より二輪・四輪部品の成形品の生産を開始し、順調に増産を続け、2016年度での営業利益の黒字化を目指しております。

16/12月期 第2四半期決算の概要

PRODUCTMOTHER FUJI SEIKI

4

2016年12月期第2四半期の決算概要についてご説明いたします。

16/12月期第2四半期(累計)決算の概要

PRODUCT MOTHER FUJII SEIKI

(百万円)		15/6月期	16/6月期	増減額	増減率(%)
売上高	連結	2,591	2,561	△30	△1.2
営業利益	連結	91	42	△49	△53.5
経常利益	連結	36	△14	△50	—
純利益	連結	48	△28	△76	—

連結決算のポイント

- ◆ 売上高は、精密成形品事業で自動車関連部品を中心に順調に推移した一方、中国市場における精密金型の大口案件の受注時期の下期へのずれ込みがあり、前期比1.2%の減収
- ◆ 営業利益は、精密金型事業での受注時期のずれ込みによる稼働率の低下などにより、前期比53.5%の減益
- ◆ 経常利益・純利益は、営業利益の減少などで赤字

5

2016年第2四半期(累計)の売上高は、精密成形品事業で自動車関連部品を中心に増収となりましたが、中国市場における精密金型の大口案件の受注時期の下期へのずれ込みの影響があり、前期比30百万円(1.2%)減少の25億61百万円となりました。

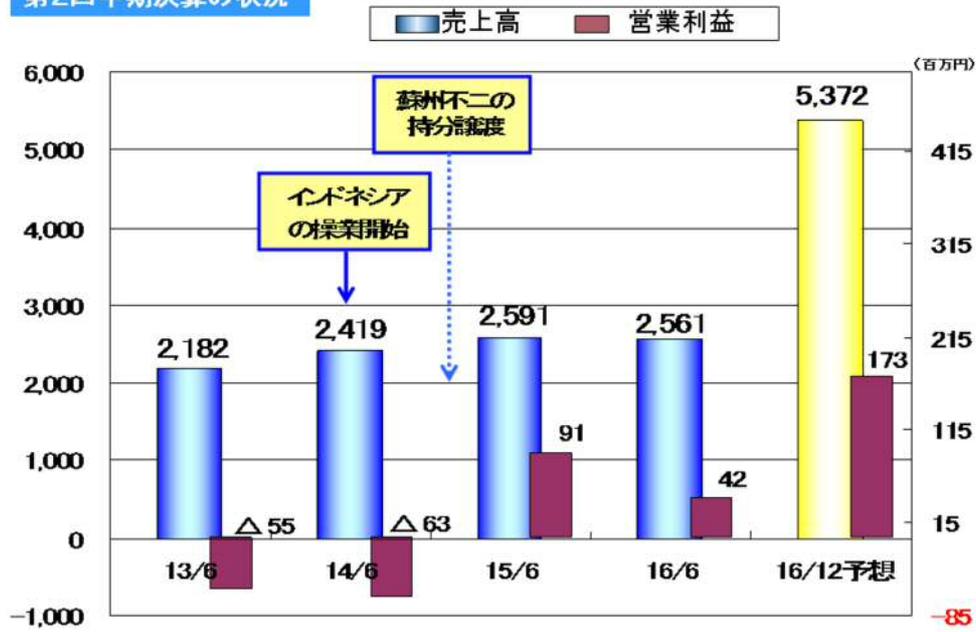
営業利益は、精密金型事業での受注時期のずれ込みによる売上高の減少および稼働率の低下などにより、前期比49百万円(53.5%)減少の42百万円となりました。

営業利益の減少により経常損失14百万円、純損失28百万円となりました。

売上高と営業利益の推移(連結)

PRODUCT MOTHER FUJII SEIKI

第2四半期決算の状況



6

2016年通期の業績予想につきましては、平成28年2月18日付で公表いたしました業績予想の売上高53億72百万円、営業利益1億73百万円を据え置き、現時点では変更していません。

B/Sの主な増減科目(連結)

PRODUCT MOTHER FLUJI SEIKI

(百万円)	15/12期末		16/6期末		増減額	コメント
		構成比		構成比		
流動資産	2,967	49.9	2,433	45.7	△534	
現金・預金	684	11.5	454	8.5	△230	手元資金圧縮
受手・売掛金	1,228	20.6	1,010	19.0	△218	売掛金の減少
棚卸資産	687	11.5	553	10.4	△134	製品の減少
固定資産	2,898	48.7	2,823	53.0	△75	減価償却実施150
資産合計	5,951	100.0	5,329	100.0	△622	
流動負債	3,346	56.2	2,844	53.3	△502	1年内社債の減少
支払手形・買掛金	771	13.0	577	10.8	△194	買掛金の減少
固定負債	1,490	25.0	1,651	31.0	161	長期借入金の増加
負債合計	4,837	81.3	4,495	84.3	△342	
純資産合計	1,113	18.7	834	15.7	△279	自己資本比率△3.1ポイント
負債・資本合計	5,951	100.0	5,329	100.0	△622	

自己資本比率 15.6%

7

総資産は、前年度末比6億22百万円(10.5%)減の53億29百万円となりました。

流動資産は、受取手形・売掛金、棚卸資産の圧縮に努めたことにより5億34百万円(18.0%)減少しております。

固定資産は、減価償却1億50百万円の実施などにより、前年度末に比べ75百万円(2.6%)減少しました。

負債は、前年度末比3億42百万円(7.1%)減の44億95百万円となりました。長期借入金・社債を計画通り返済したことなどによるものです。

純資産は、利益剰余金の減少29百万円、円高による為替換算調整勘定の減少1億43百万円、自己株式の取得1億3百万円(93万株)などにより、前年度末比2億79百万円(25.1%)減の8億34百万円となりました。＜自己資本比率は、3.1ポイント減の15.6%＞

◆2016年3月25日開催の定時株主総会決議に基づき、2016年5月6日付で以下の通り減資を実行しております。

- ・資本金の減少額 534,180千円
- ・その他資本剰余金の増加額 534,180千円

この減資実行により、会社法上の分配可能額(配当原資などになる額)が同額発生し、配当金実施が可能な条件は整いました。

キャッシュフローの状況(連結)

PRODUCT MOTHER FLUJI SEIKI

累計期間(百万円)	15/第2四半期	16/第2四半期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	87	139	52
投資活動によるキャッシュフロー	0	△197	△197
財務活動によるキャッシュフロー	△6	△154	△148
現金及び現金同等物の期末残高	923	454	△469

キャッシュフロー要約

営業活動

売掛債権・棚卸資産の圧縮により安定的に資金を確保しております。

投資活動

インドネシアの成形設備などへの投資を継続しております。

財務活動

長期借入金・社債の返済を計画通り実行しております。
自己株式の取得を実施(6月)しております。

8

営業活動では、売掛債権・棚卸資産の圧縮によって資金効率を高め1億39百万円を確保しました。

投資活動では、主としてタイ、インドネシアでの成形品製造設備の取得による支出2億円を実施しております。

財務活動では、長期借入金・社債の返済を計画通り進めました。また、自己株式の取得による支出1億3百万円を実施しております。

グループ全体での資金管理の精度向上により手元資金を圧縮し、有利子負債の削減を進めております。

基本事業戦略

PRODUCTMOTHER FUJI SEIKI

9

基本事業戦略についてご説明いたします。

◆基本戦略

将来にわたる収益確保のため

「金型技術」をベースに「成形事業」を

第二の収益の柱とする

当社グループは、将来的に市場規模の縮小が想定される「金型事業」から、当社の金型技術を生かした付加価値の高い成形品に特化した「成形事業」を、第二の収益の柱とすることを目指しております。

なぜ成形事業なのか

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

精密成形品製造プラント(タイ)



超精密金型製造技術と、
的確な対応・海外展開力が強み



金型メーカーだから実現可能

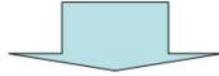
メンテナンスへの対応	←.....	金型メーカーだから 素早い対応が可能
プラスチック成形品の製造	←.....	金型メーカーだから 歩留まりが高く、効率化が可能
立上げから量産化まで	←.....	金型メーカーだから 時間短縮、効率化を支援可能
成形生産周辺設備の設置	←.....	金型メーカーだから 周辺設備も最適化できる
成形システムの最適化	←.....	金型メーカーだから 最適化を熟知している
超精密金型の製造	←.....	金型メーカーだから イニシアティブを取れる

11

第二の収益の柱とする精密成形品事業に関する、当社グループの強みを記載しております。

◆ 連結利益目標達成への課題

- ① 国内金型市場の縮小への対応
(顧客の海外生産シフト)
- ② 成形品事業の受注変動リスク低減
(安定稼動を目指した製品への集中)

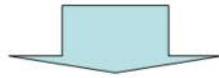


年間平均稼動率を高める

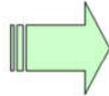
連結利益目標の達成に向けての課題は、製造業の海外生産シフトが進む日本の金型市場への対応、および安定した稼動が利益に直結する成形品事業での受注変動リスクの低減であると考えております。

◆課題への対処

- ①医療・食品分野への集中(金型事業)
(顧客ニーズへの対応により新規受注獲得)
- ②営業活動の重点シフト(成形品事業)
(海外の自動車関連部品の拡大へ集中)



稼働率安定



利益目標達成!

金型事業においては、医療用品関連分野・食品容器関連分野への集中し、新規受注の獲得に注力いたします。

また、成形品事業の稼働率安定に向け、受注の波が比較的少ない自動車関連部品(2輪・4輪)分野への集中を進め、年間の稼働率の安定により目標とする連結利益の達成を目指します。

2016/12月期事業計画

PRODUCTMOTHER FUJI SEIKI

14

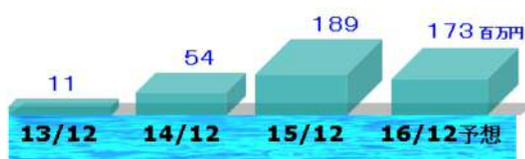
今期の事業計画をご説明いたします。

16/12月期通期計画(連結)

PRODUCT MOTHER FUJII SEIKI

(百万円)	15/12月期	16/12月期計画	増減額	増減率%
売上高	5,539	5,372	▲167	▲3.0
売上総利益	1,167	1,140	▲27	▲2.3
販管費	977	967	▲10	▲1.0
営業利益	189	173	▲16	▲8.5
経常利益	▲53	29	82	—
当期純利益	▲64	18	82	—
設備投資	471	220	▲251	▲53.3
減価償却費	285	361	76	26.7

営業利益の推移



<営業利益計画のポイント>

◆インドネシア営業黒字化

◆コスト構造の改革

①内製化→外注費削減

②自動化→人件費抑制

↓
営業利益計画達成へ

15

2016年12月期は、当社グループ全体で各事業の選択と集中をさらに進め、精密成形品事業では、海外での自動車関連製品の拡大による収益の拡大、日本でのディスクケース製品のシェア拡大による安定収益の確保を目指します。

精密金型事業では、医療用品関連分野・食品容器関連分野に集中した営業活動、およびグループ内で連携した固定費圧縮・内製化の推進などの生産性向上活動を実施し、安定収益の確保を目指します。

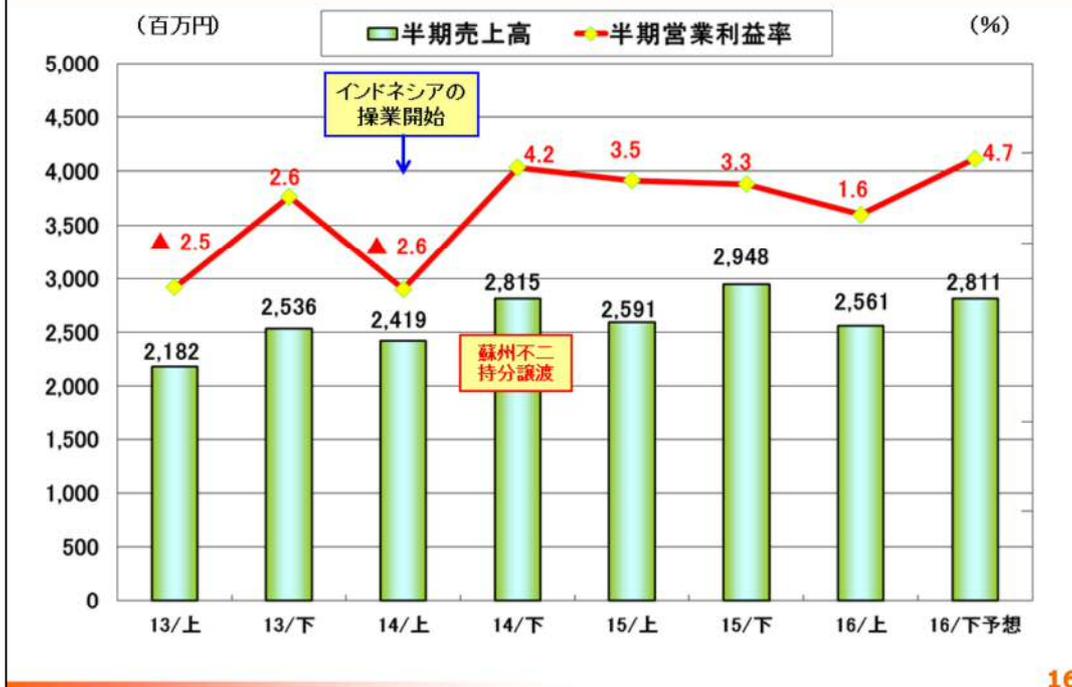
営業利益は、稼働率の向上による不二精機インドネシアの黒字化、自動化/半自動化による人件費抑制を中心としたコスト構造の改革を確実に実施することにより、前期比16百万円減の173百万円の計画達成を目指します。

不二精機インドネシアの開業費償却および支払利息などの営業外費用があり、経常利益29百万円、当期純利益18百万円を計画しております。

2016年通期計画につきましては、2016年2月18日付で公表いたしました業績予想を据え置き、現時点では変更していません。

半期毎の業績推移(連結)

PRODUCT MOTHER FUJII SEIKI



2016年12月期は、当社グループ全体で各事業の選択と集中をさらに進め、精密成形品事業では、自動車関連製品への集中による収益の拡大、および日本でのディスクケース製品のシェア拡大による安定収益の確保、ならびに東南アジアでの受注拡大に伴う増産体制の整備を進め、不二精機インドネシアは操業度の向上により、営業利益の黒字化を目指します。

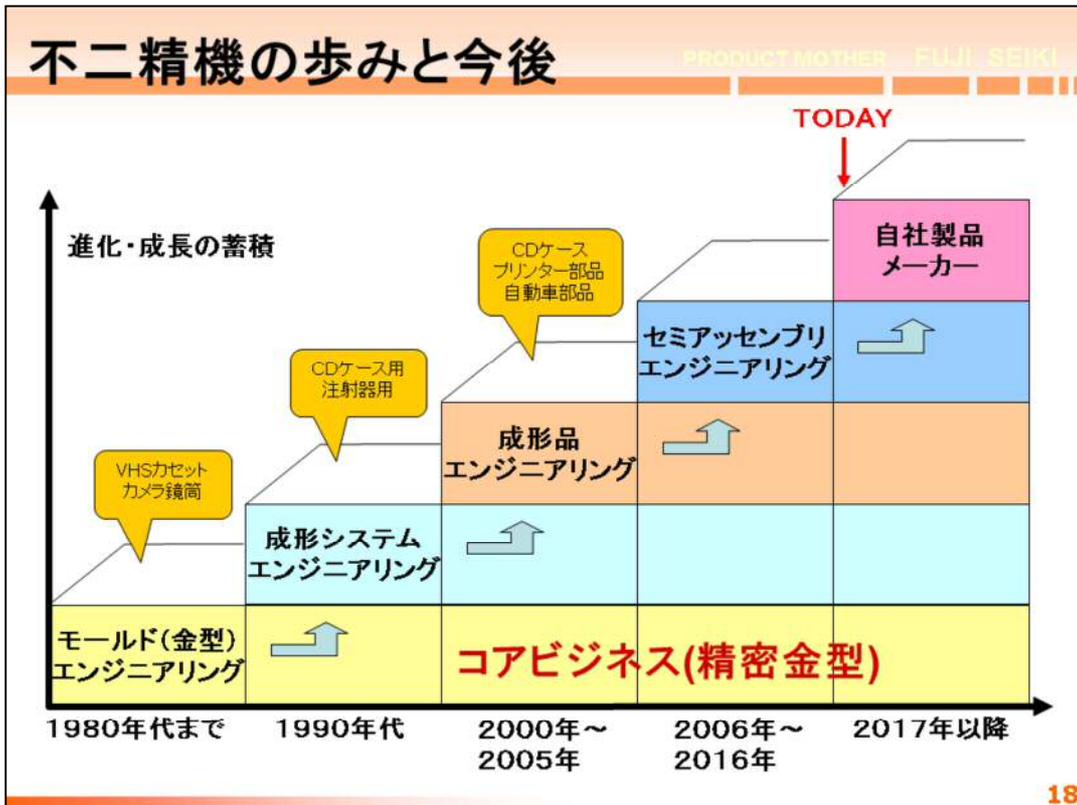
中期事業戦略

PRODUCTMOTHER FUJI SEIKI

配当再開を目指して！

17

中期事業戦略についてご説明いたします。



1955年の創業以来、「精密小物向け金型では、他社に負けない」を合言葉に、着々と顧客のご支援を頂きながら成長してまいりました。

1984年頃には、金型から生み出される成形品そのものの精密さが必要とされる商品向けの精密金型に加え、成形品1個当たりのコストが重視される大量生産品向けの金型にも当社の精密金型を必要とされることから、大量生産品向けマーケットへ進出しました。

1990年代より、単に金型単体での販売だけでなく、顧客が求める成形品を生産するために必要な生産設備(成形機、取出し機、自動組立機等)も併せての販売を開始しております。

2000年からは精密金型をコアとし、タイ、中国にある当社海外グループ会社等において成形品製造・販売を主体としたビジネスを展開しております。

2006年以降は、成形品の販売のみならず、成形品への印刷・塗装およびセミアッセンブリにも事業を拡大しております。

2017年以降には、当社の強みである精密金型技術を活かした自社製品メーカーを目指します。



現状の市場別環境認識とグループ各社の方針および課題を記載しております。

地域別売上高推移

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



海外売上高の比率は、50%を超えて推移しております。中期的に売上高は、自動車関連の精密成形品を中心に海外市場での拡大を目指しております。

セグメント別売上高推移(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



21

精密成形品の売上高比率は、60%を超えて推移しております。中期的に、精密金型セグメントでは医療用品関連分野・食品容器関連分野を中心に付加価値の高い受注に集中し安定的な推移を目指しながら、精密成形品セグメントで自動車関連部品を中心に着実な拡大を目指しております。

精密金型分野別売上高推移(連結)

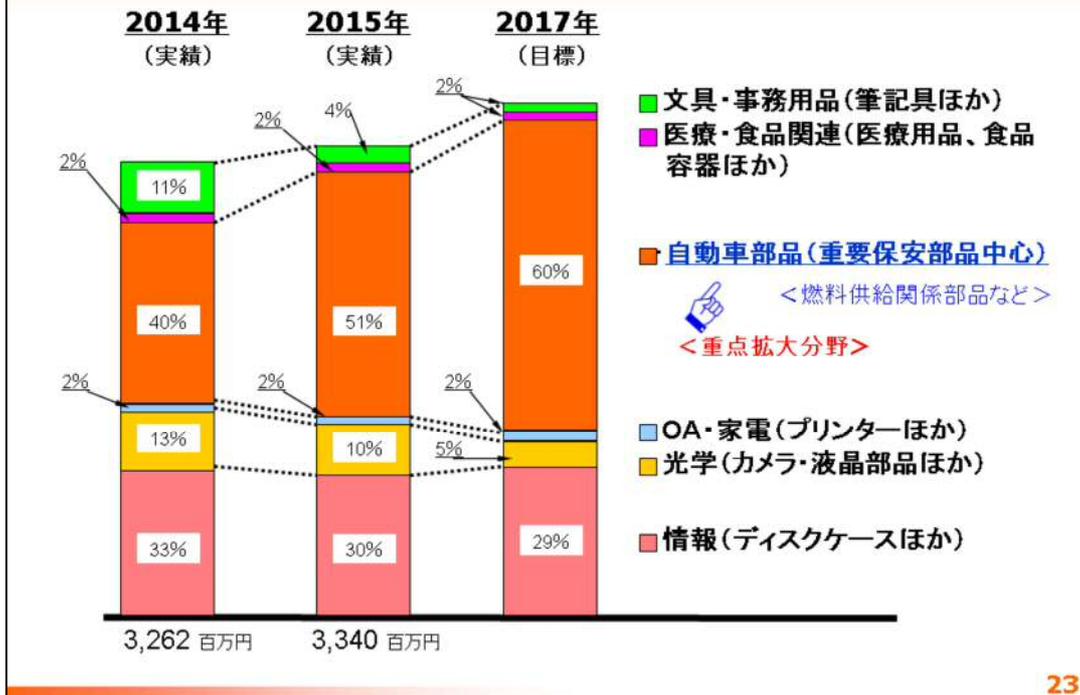
PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



精密金型の売上は、日本の金型市場の縮小を想定し、医療用品関連分野・食品容器関連分野へのさらなる集中を進めております。

精密成形品分野別売上高推移(連結)

ST MOTHER FUJI SEIKI

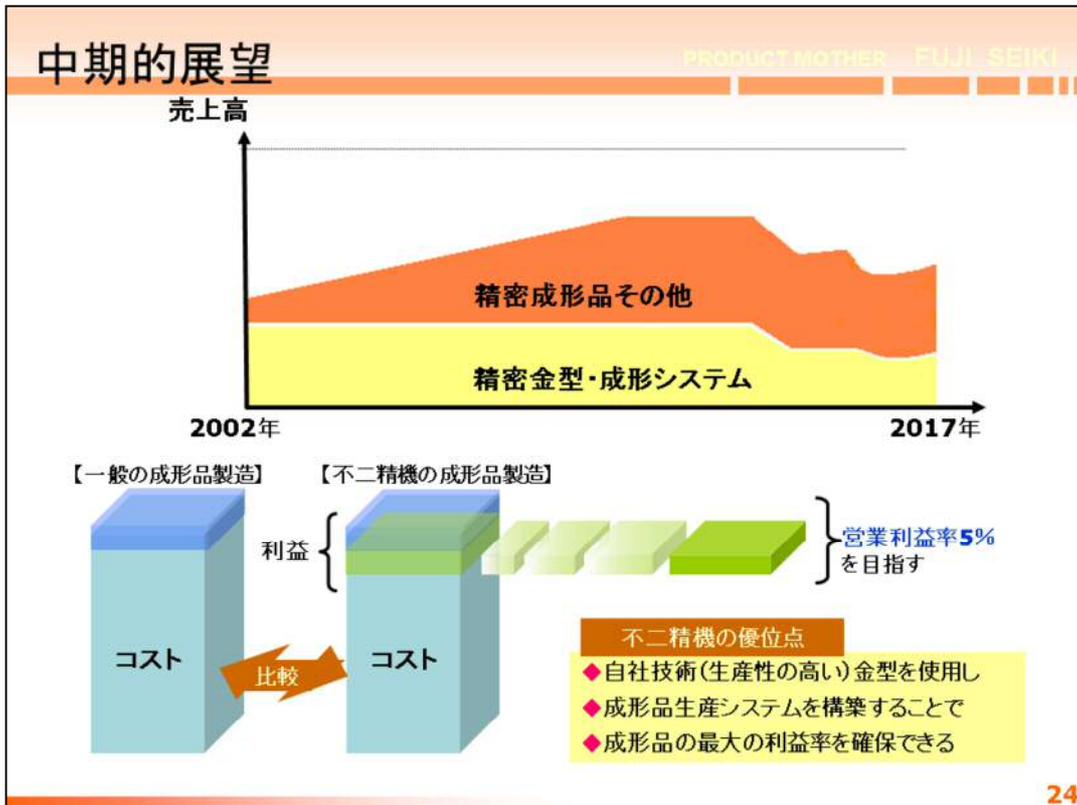


23

精密成形品売上の中で、市場が縮小方向にあるデジタルカメラほかの光学分野は減少を計画し、国内市場でのディスクケース製品は新製品効果などにより横ばいを計画しております。

受注の波が比較的少なく長期的安定生産につながる自動車部品(2輪・4輪)分野の拡大に集中し、利益率向上の課題である年間平均稼働率を高めることにより、利益率の改善および利益額の確保を目指します。

当事業の拡大には、当社グループの強みである高生産性金型技術および品質管理の整備された成形品量産体制を戦略的に活用いたします。



売上高に関しては、2008年から2009年にかけて精密金型事業、精密成形品事業ともに世界同時不況により、2011年から2012年は東日本大震災およびタイの洪水の影響を受け減収となりました。

精密成形品その他事業では、自動車関連部品(2輪・4輪)の分野の受注拡大を推進し、安定稼働と自動化/半自動化投資による省人化を進めることにより利益率の向上を目指します。

精密金型事業においては、強みのある医療用品関連分野・食品容器関連分野の金型販売および精密成形品事業の受注拡大につながる金型製造に注力いたします。併せて、さらなるコスト構造の改革により製造原価の低減を進め、利益率の改善を目指します。

以上の活動により、営業利益率5%の達成を中期目標としております。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

PRODUCTMOTHER FUJI SEIKI



お問合せ先

管理本部
TEL:06-4306-6822

25

ありがとうございました。